

<復習>

第11回講義(20130703)は、臨時で Nebraska 大学 Omaha 校の Halla Kim 准教授に、「韓国仏教における「無」というタイトルで講演していただいた。韓国仏教で禅宗の力が強いことがわかり興味深かった。日本思想史は、やはり東アジア思想史の文脈で捉える必要があると強く感じた。

大乘仏教が、「無」や「空」を真理ないし原理とすると、真理や原理は言葉では説明できないものとみなすことになる。そこで必然的に経典よりも体験を重視する禅が有力な宗派となる。(逆に言うと、真言宗は、無や空について言葉で説明できると考えるのだろうか。浄土宗、真宗は、言葉を重視するが、しかし重視されるのは、その言葉は主張型の発話ではなくて、念仏をとなえるという行為遂行型発話である。)

「無」の言語表現について。ラッセルによると、「フランス王はハゲである」は無意味でなく、偽である。(「ナウシカは少女である」も、偽?)ラッセルは、「五蘊皆空」「何も存在しない」などの文ないし言明を偽であるとみなすだろう。なぜなら、何かが存在するからである。「なぜ無ではなく、何かが存在するのか」というライブニッツの問いについては、ノージック『考えるということ』を参照。クワインは「すべてのものが存在する」と主張した(「何があるのかについて」)が、これは何も存在しないことと両立する。

<復習と補足>

5、問答の観点からの考察

(2) 宣言型発話の区別

①間違ふことが原理的にありえない宣言

「棒Sの長さを1メートルとする」

②間違ふことがありうる宣言:「断言的宣言型(assertive declaration)」(サール)

例えば、野球の審判の「アウト」「セーフ」の判定は、間違ふことがありうる。

この発話は、宣言と主張という二つの発語内行為を行なっている。

サールは、①のタイプの宣言をさらに3種類に分けている。

①a: 言語外的宣言(extra-linguistic declaration): 言語外的な制度を必要とするもの

破門、任命、財産を遺贈、宣戦を布告。

①b: 超自然的宣言(supernatural declaration): 言語外的な制度を必要としない場合: 超自然的な場合

①c: 言語的宣言(linguistic declaration): 言語外的な制度を必要としない場合: 言語それ自身に関わる場合

定義する、略記する、名づける、呼ぶ、あだ名する。

①の宣言は、真理値を持たない。

②は、ある事実判断についての社会による決定の宣言ではないか。事実判断が明瞭であるときにも、社会的なプロセスをすすめるために、社会による決定の宣言が必要である。

①aでは、「スピノザを破門する」と発話することが、破門する行為になるためには、言語外的な制度(教会制度)が必要である。この点で①aは、②と同じく、社会による決定の宣言である。ただし、事実判断についてのものではない。

(3) 「真理値を持つ命題」の定義の試み

真理値を持つ命題=同値図式「 $\langle p \rangle$ が真であるのは、 p のときそのときに限る」が成り立つ命題 p

=主張型発語内行為の対象となりうる命題

=主張としての同一性命題

(4) オースティンの真理の対応説 (論文「真理」より)

記述的規約——言葉(＝文)を世界の中に見出される状況や物事、事象などのタイプと対応させる規約
指示的規約——言葉(＝言明)を世界の中に見出される歴史的状況などに対応させる規約

言明が真であるといわれるのは、それが指示的規約によって対応させられる歴史的事態(それが「言及する」もの)が、それをなすのに用いられた文が記述的規約によって対応させられるタイプに属するときである。」
(信原幸弘訳 p. 189、強調下線は引用者)

言明「猫がマットの上にいる」が真である＝この言明が指示的規約によって対応する歴史的事態が、
この文が記述的規約によって対応する状況のタイプに属する

この言明は「xが猫であり、かつxがマットの上にいる、そのようなxがただ一つ存在する」と書き換えられる。
この文の記述的規約を明確にするには、「xが猫である」を明確にしなければならない。この作業は、つぎの言明の真理を説明することである。

言明「これは猫だ」が真である＝「これ」の発話が指示的規約によって対応する対象が、
「猫」が記述的規約によって対応する事物のタイプに属する

「猫」の記述的規約を明確にするためには、「猫」の定義が必要になる。語「猫」を定義することは、同時に対象<猫>を定義することである。この二つを分けることはできない。(このことから、ソシュールは語彙の体系が一気に与えられると考えたし、クワインは意味の全体論を考えた。クリプキならばつぎのように定義するだろう。「猫とは、これ、及びこれに似た動物である」という定義は、個体の直接指示と、普遍(ある性質)の存在を前提している。これは「博物館の神話」(クワイン)である。)「猫」の定義は、どのようにして可能だろうか？(この問いを、ここではペンディングにせざるを得ません。)

今週はここから

(5) 二種類の宣言、定義と意志決定

すべての言明は同一性言明に書き換えられるとしよう。このとき、すべての同一性言明は、真理値をもつものと持たないものに分かれる。真理値をもつ同一性言明は主張を行っており、真理値を持たない同一性言明は宣言を行なっている。この宣言は、更につぎの2つに分けられる。

①定義としての宣言:

「棒Sの長さは1メートルである」(「棒Sの長さ=1メートル」)

「この子をオバマと名付ける」(「この子の名前=オバマ」)

これらは語(「メートル」「オバマ」)の使用の規則を決定する宣言である。

これらの宣言は、次のような問答の答えを完全文にしたものである。

「1メートルの長さをどう決めますか」「この棒Sの長さとする」

「棒Sの長さを、どう呼びますか」「1メートルとする」

「この子の名前を、どう決めますか」「オバマとする」

②定義の記述(主張)

これら定義が行われた後、これらの言明を繰り返すとき、それは主張となり、(クリプキによれば)アプリアリな偶然的真理となる。その繰り返しは、次のような問いへの答えとして生じる。

「棒Sの長さは、いくらですか」「1メートル」「棒Sの長さ=1メートル」

「この子の名前はなにですか」「オバマです」「この子の名前=オバマ」

これらの問いへの返答は主張であり、真理値をもつ。

③意志決定としての宣言:

「私はうどんを注文する」「私の注文=うどん」

「私はキャンプに行きます」「私がすること=キャンプに行くこと」

これは、語の使用の規則を決定するものではない。

これらの宣言は、次のような問答の答えを完全文にしたものである。

「あなたは何を注文しますか」「うどん」

「あなたはキャンプに行きますか」「行きます」

④意志決定の記述(主張)

この決定が行われたあと、これらの言明を繰り返すとき、それは主張となり、アポストリオリな偶然的真理となる。

その繰り返しは、次のような問答の答えとして生じる。

「あなたの注文は何でしたか」「うどんです」

「あなたはキャンプに行くことにしましたか」「行きます」

(6) 同じ同一性文が、宣言であるときと記述であるときの区別はどこから生じるのか?

①と②の場合、同じ同一性文が、宣言であるときと記述であるときの区別は、それを答えとする問いの違いから生じる。

「棒Sの長さを、どう呼びますか」「1メートル」

「棒Sの長さは、いくらですか」「1メートル」

最初の問いは、棒Sの長さの呼び方がきまっていないことを含意している。したがって、それに答えることは、事実を記述することではなく、呼び方を決定することである。このことは、答えの一語文を見ても理解できず、問いによって理解できる。

第二の問いは、棒Sの長さの呼び方がきまっていることを含意している。したがって、それに答えることは、事実を記述することになり、答えは真理値をもつ。このこともまた、答えの一語文ではわからず、問いによって理解できる。

次のような問答の場合にも同様である。

「1メートルの長さの尺度をどう決めますか」「この棒Sの長さです」

「1メートルの長さの尺度は何ですか」「この棒Sの長さです」

③と④の場合も、同じ同一性文が、宣言であるときと主張であるときの区別は、それを答えとする問いの違いから生じる。

「あなたは何を注文しますか」「うどん」

「あなたの注文は何でしたか」「うどんです」

最初の問いは、注文がまだ行われていないことを含意しているので、それに対する答えは、注文の記述ではなく、注文の決定となる。それに対して、第二の問いは、注文が既に行われていることを含意しているので、それに対する答えは、注文の記述となり、真理値をもつ。これらの違いは、答えの一語文からはわからず、問いによって理解できる。

この問いの区別は、指示の区別と関係しているので、\$を改めて考えたい。

(「真である」の定義、および「真理値を持つ言明」の定義はまだ完了していません。現在の暫定案は、次のとおりです。

「真である言明＝宣言された同一性命題の反復である発話ないしそれから推論された発話」

「真理値を持つ言明＝その言明ないしその否定の言明が真である言明」

しかし、これについてはまだ検討すべき点があるのこっています。「真理値を持つこと」と「真理値を持ちうること」の区別(直観主義論理をさいようするとき、この区別が重要になる)、「すべての真理値をもつ命題は、宣言にもとづくのか」、「アプリアリな言明」と「アポステリアリな言明」の区別など。

§ 6 問答の観点からの指示論 (その2)

1, 主張型同一性言明を答えとする問いと、宣言型同一性言明を答えとする問いの違い

①「彼が注文したものは何ですか」「うどんです」記述

「彼が注文したもの＝うどん」

②「あなたが注文したものはなにですか」「うどんです」記述

「私が注文したもの＝うどん」

これらの問いが指示しているのは、「彼(あなた)が注文したもの」であり、すでになされた注文の対象を指示している。

③「あなたが注文するものはなにですか」「うどんです」宣言

「私が注文するもの＝うどん」

この問いが指示しているのは、「あなたが注文するもの」であり、まだ注文が行われていないことを含意している。

①と②と③の「うどんです」による対象の指示は、或る意味では同じように行われる。どの場合でも、声に出したり、あるいはメニューを指差したりして、指示することができる。

(彼が指差すメニューの「うどん」の文字は何を意味しているのだろうか？)

その店が、もし注文されたならば、うどんを提供できることを示している。

そのときのうどんとは何だろうか？

それはまだ存在しない。しかし、それは普遍的な概念、あるいは種、あるいは普遍としては存在する。

その普遍を表現した文字を指差すことによって、彼はその普遍の例化である一杯のうどんを手に入れる。)

違いは、問いにある。①と②の問いでは、「彼(あなた)がすでに注文したものの名前(普遍概念)ないし種類」を指示している。答えるものは、「うどん」によって、その名前(普遍概念)ないし種類を指示する。問いと答は、同一のものを指示している。これに対して③の問いでは、「(あなたが)これから注文するものの名前ないし種類」を指示している。しかし、まだ注文していない、それはまだ存在しない。「うどん」と言う答えによって、問いが求めている名前ないし種類を指示し、問いと答えが同一のものを指示することを宣言するのである。

■しかし、問いがまだ存在しないものを指示していても、返答が宣言にならない場合がある。

④「今年の世界陸上の100走の一位は誰でしょうか」「ボルトです」

「今年の世界陸上の100走の一位＝ボルト」(予想)

この問いもまた、「今年の世界陸上100走で一位になるひと」が、まだ決まっていないことを前提して、指示している。この返答は、記述ではないが、宣言でもない。この返答は予想である。予想は、宣言と同じく真理値を持たない。しかし、ある時期が来たときに、それは真ないし偽になる。予想された言明は、真理値を持たないが、真理値を持ちうる言明だといえるだろう。

では、予想と宣言の違いは何だろうか。

①～④のいずれの場合も、問いは相手に指示を求めている。①②の場合には事実への指示を求め、③の場合には意志決定を求める(注文する対象の指示を求める)、④の場合には予想するものへの指示を求める

予測は主張の一種であろう。未来についての記述であるといえるかもしれない。

推量は、過去、現在、未来の出来事についての記述であるが、主張と比較して、その記述に対して弱いコミットメントをおこなう。

予測には、強いコミットメントと弱いコミットメント(未来の出来事についての推量)の場合がある。

最終レポート について	2013年度第一学期 文学部「哲学講義」題目「問答の観点からの哲学的意味論・真理論」 大学院「存在論講義」題目「問答の観点からの哲学的意味論・真理論」
テーマと形式:	講義内容に関係したテーマを自由に設定してください。 (例えば、講義で言及した文献を読み、その一部を紹介し分析する。) ・必ず内容を正確に表現するタイトルをつけてください。 ・もし可能ならば次の形式にしてください。 形式 : 問題 問題の説明 答え 答えの証明
分量	4000字程度 (英語の場合、ca.1800 words)
用紙	ワープロ原稿横書き、A4、和文の場合 40 字 30 行、(英語の場合、12pt. New Times Roman) 上下 左右のマージン 20-25mm
締め切り	2013年8月19日午後5時(必着)
提出場所	文学部玄関「入江」のメールアドレス(郵送可、大阪大学文学部入江幸男宛て) e-mail で送るのはやめてください。